

# 日刊 労働券千葉

81.10.30

No882

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五(六・公衆) 〇三三(七)七二〇七

## 「基本構想」と非公開議事録の反動性

### その2

# 右翼的労働戦線「統一」問題を考える

## 国家防衛・企業防衛・労資協調をめぐり 闘う労働組合運動を全面否定し、 攻撃

\*\*\*\*\*

それでは、「民間先行による労働戦線統一の基本構想」及び「統一推進会」の非公開「議事録」の反動的内容について明らかにしていこう。まず、「基本構想」の「情勢の本認識」において、「……わが国経済の繁栄期は終り、われわれの住む産業社会は歴史上いまだ経験したことのない深刻な危機を迎えることになったのである。」として、支配階級と同じ立場で体制の危機的情勢をとらえています。さらに、戦後の「高度経済成長」を支え、石油危機後の今日の「安定成長」を支えた最大の原動力は、「質的に優れ量的に恵まれたわが国の労働力であり、労働組合の対応であった」と公然とIMF・JIC・同盟の生産性向上・企業合理化・協力など労資協調・企業防衛路線を全面的に誇示しています。そして、最後に「政治・経済・社会全般にわたる内外の変動に対応していくためには、労働運動は新しい視点に立脚し、政策的にも理念的にも古い殻を打破していかねばならない」として、労働戦線の右翼的統一を積極的に推進することを明らかにし、「この取り組み努力を右翼的再編と一方的にきめつける団体・組織に対しては、毅然として対応」することを宣言しているのです。また、このような反動的な「基本構想」を発表するたぬに行われた十二回に及ぶ「統一推進会」の非公開「議事録」の中では、労働戦線「統一」策動の反動的意図が、より具体的に露骨に出されています。

\*\*\*\*\*

戦闘的労働運動はもとより  
「労働組合」そのものをも否定

戦争政策と改憲攻撃に加担する  
「労働組合」産業界に打ち出す

(宇佐美)……これから進めようとする統一組織は、階級闘争主義による労働運動はあわない。  
(中川)うちにも反対があるかも知れない。とくに官公労では私の知っていることを聞いたらびっくりするだろうと思う。しかし、そうやっていかなければ、民間統一としての意味がない。

(中村)憲法にも改正条項があるわけで、現行憲法が不磨の大典でない。その時々々の条件変化に応じて内容を変えていくというのが護憲の精神である。  
(塩路)変えてはいけないという護憲論がどうも正論化されるようなむきがある。  
(塩路)「平和憲法」の平和という言葉が気に入ります。

(中村)……労働組合の戦闘性だとかいう今さらいつてみてもしょうがないようなことはやめたらどうか。  
(中川)その通りだ。階級闘争だとか組合民主主義だとか、あるいは労資協調だとかいうことはやめよう。  
(宇佐美)私が一番いいたいのは、ズバリいえば、階級闘争主義の労働運動とは、われわれは別だということだ。  
(塩路)……労働組合主義という言葉あまり正面にたてて議論するよりなことにはない方がよいと思う。

(塩路)極端なことをいって、……自民党がやっていた方がいい場合もあるかも知れない。このように「統一推進会」は、自動車総連会長組・塩路を先頭に積極的に政府・自民党の戦争と改憲攻撃に加担し、右翼的労働戦線「統一」をもって、「産業報国会化」せんとしているのです。またその他、「国際自由労連への加盟」を明確に打ち出し、「官公労も第二次臨調で行政改革をどんどん進めていけば変わるかもしれない」と公言し、こうした「基本構想」を「一言半句も修正しない」とうそぶいているのです。

というように極めて露骨に戦闘的労働組合運動を否定し、労資協調路線の下で労働組合という根本をも否定する方向で労働戦線の「統一」を策謀しているのです。

このような右翼的労働戦線「統一」策動が何をめざしているかは明らかです。政府・支配階級の軍事大国化・戦争体制構築・改憲攻撃の先兵となって総評労働運動解体・戦闘的労働運動破壊を行おうとしているのです。  
(以下次回)